

帯広市ばんえい競馬のあり方について

報 告 書

平成23年11月

帯広市ばんえい競馬検討委員会



# 目次

## はじめに

1	ばんえい競馬の概況	
(1)	沿革	1
(2)	運営体制及びばんえい競馬会計の仕組み	1
(3)	開催状況	2
2	ばんえい競馬の地域における位置づけ	
(1)	北海道開拓の歴史を伝える文化としてのばんえい競馬	2
(2)	観光資源としての可能性	2
(3)	地域経済への貢献	3
3	ばんえい競馬の現状と課題	
(1)	入場者、売上について	3
(2)	経営状況について	3
(3)	馬主、生産者、調教師、厩務員について	4
4	ばんえい競馬継続開催に向けた課題への対応	
(1)	収入の確保	5
①	本場入場者の増加策	
②	馬券購入につなげるための方策	
③	馬券発売収入以外の収入確保策	
(2)	運営手法の見直し	7
①	業務委託方法について	
②	賞典奨励費（変動制）について	
③	行政の主体性の確保について	
5	ばんえい競馬の今後のあり方	8
6	参考資料	



## はじめに

ばんえい競馬は、昭和28年に帯広市、旭川市、北見市、岩見沢市の4市がそれぞれ主催する市営競馬として発足し、以降、開催4市を構成団体とする北海道市営競馬組合など、時代に応じた経営の合理化をはかるため、運営体制を変えながら開催されてきました。

この間、ばんえい競馬は、収益の分配により地方財政や地域経済にも大きく貢献し、娯楽として多くの市民に親しまれてきましたが、バブル経済崩壊の影響等により、平成3年度をピークに発売額が減少し、平成7年度には初の単年度収支赤字となりました。

以降、様々な経営改善策を講じたものの収支改善には至らず、平成18年度の構成4市市長会議において、継続開催が困難との判断が出されましたが、ファン、競馬関係者、市民からのばんえい競馬存続への強い要請と民間企業の支援等により、平成19年度に、帯広市単独開催による新生ばんえい競馬「ばんえい十勝」としてスタートしました。また、平成22年8月には、競馬場敷地内に観光拠点施設「とちらむら」をオープンしています。

現在、景気の低迷やレジャーの多様化等により、地方競馬のみならず、公営競技全体が大変厳しい経営環境にあり、やむなく廃止に至ったところもあります。帯広市ばんえい競馬も単独開催から5年目を迎えることができましたが、馬券発売収入は年々減少しており、厳しい経営状況となっています。

このため、競馬主催者である帯広市は、学識経験者や一般市民、ばんえい競馬関係者による「帯広市ばんえい競馬検討委員会」を設置し、ばんえい競馬の継続開催に向けたあり方について、幅広い視点から検討を行うこととしました。

帯広市ばんえい競馬検討委員会は、平成23年5月に第1回検討委員会を開催し、その後、11月までの6回にわたって、ばんえい競馬を取り巻く厳しい現状を認識しつつも、十勝・帯広の貴重な地域資源であることを確認しながら、今後のばんえい競馬のあり方について、議論を重ねてまいりました。

本検討委員会は、これまでの議論を整理し、ここに報告・提言するものであります。

帯広市ばんえい競馬検討委員会 委員長 後藤 健二



## 1 ばんえい競馬の概況

### (1) 沿革

ばんえい競馬は、北海道の農村を中心に娯楽として親しまれていた「お祭りばんば」から生まれ、開拓の歴史とともに発展してきた競技です。

公営のばんえい競馬は、昭和24年に北海道の主権により開催されたのが始まりです。その後、競馬法改正をうけ、昭和28年に市営競馬が発足、これまで、時代に応じて運営体制を変えながら開催されてきました。

- 昭和28年 旭川市、帯広市、北見市、岩見沢市が単独で開催。  
～4市それぞれが主催する市営競馬が発足～
- 平成元年 北海道市営競馬組合を設立。  
～開催日程の競合や賞金額の格差など4市独自開催の弊害が生じてきたことから、開催4市を構成団体とする一部事務組合を設立～
- 平成3年 馬券発売収入がピークとなる。(平成3年度)
- 平成7年 初の単年度収支赤字となる。(平成7年度)
- 平成19年 北海道市営競馬組合解散。(3月31日)  
～様々な経営改善策を講じたものの収支改善には至らず解散～
- 平成19年 帯広市単独開催がスタート。(4月1日)  
～ばんえい競馬存続への強い要請と民間企業の支援により、新生ばんえい競馬「ばんえい十勝」として、再スタート～
- 平成22年 商業施設「とちまちむら」がオープン。(8月6日)

### (2) 運営体制及びばんえい競馬会計の仕組み

#### 運営体制(平成23年4月1日現在)

- 帯広市(競走根幹業務)  
市職員5名、嘱託職員6名、臨時職員1名
- オッズパーク・ばんえい・マネジメント株式会社  
(受託業務:馬券発売払戻、場内・場外設備の管理、広告宣伝等)  
社員37名、臨時従事員等125名
- その他(警備、清掃、映像、獣医師、装蹄師、放送関係)38名
- 厩舎関係  
調教師33名、騎手32名、厩務員118名

#### ばんえい会計のしくみ(資料7)

- 払戻金=馬券発売収入×74%
- 賞典奨励費(賞金・手当)の割合=馬券発売収入×8.1%

### (3) 開催状況

ばんえい十勝は、土・日・月曜日を中心に開催されており、平成23年度は年間153日の開催を予定しています。

馬券の発売は、本場のほか北海道内7箇所（旭川、北見、岩見沢、釧路、苫小牧、名寄、網走）で行っています。また、南関東（大井、川崎、船橋、浦和）、北海道などの他場で開催されている競馬の馬券も発売しており、平成23年度は247日間の発売を予定しています。

## 2 ばんえい競馬の地域における位置づけ

### (1) 北海道開拓の歴史を伝える文化としてのばんえい競馬

北海道における馬と人との関わりは、明治時代の開拓の歴史に遡ります。ここ十勝・帯広においては、依田勉三を中心とする晩成社が、明治19年にプラウ（馬に引かせて用いる鋤（すき））による農耕を開始し、現在の十勝農業の発展の基礎を築くなど、農耕馬は人々と苦勞をともにしながら、北海道の開拓の原動力として、重要な役割を果たしてきました。

現在の「ばんえい競馬」は、開拓当時の厳しい農耕の合間に、馬の価値や力を試すための競争として始まり、娯楽として親しまれていた「お祭りばんば」が発展したものであり、平成16年には北海道遺産にも選定されるなど、北海道の開拓の歴史を伝える文化といえます。

また、ばんえい競馬の開催を通して、能力の高い馬が選別され、世界でもトップクラスの大きくて強い馬が、ここ十勝に残されています。

ばんえい競馬は、馬に跨り人が馬をムチで服従させる手法ではなく、ハミ（馬の口に含ませる馬具（くつわ））と手綱を通じて、人と馬が対等な立場で、馬とコミュニケーションを取りながら操っています。これは、東北や北海道の馬耕や木の切り出しから生まれた日本人らしい馬の扱い方で、世界的にみても特異なものであり、繊細で高いレベルの馬術が継承されています。

### (2) 観光資源としての可能性

平成22年8月に、競馬場敷地内に、商業施設「とちまちむら」がオープンし、平成22年度の本場入場者は対前年度比で23.6%増の247,416人となるなど（資料4）、今では、ばんえい競馬は市内で最も集客力のある観光スポットとなっています。

競馬場内では、馬とのふれあいの場やバックヤードツアーなどの体験型メニューが提供されており、道内の幼稚園、小・中学校、高等学校はもとより、本州の修学旅行生などの団体の来場が増加しています。（資料5）



また、ばんえい競馬を取り扱ったテレビ番組が数多く放映されているほか、ばん馬のリッキー号、ミルキー号が、様々な観光イベントに参加するなど、公営競技としてだけでなく、帯広・十勝を広く発信する貴重な観光資源となっています。(資料6)

### (3) 地域経済への貢献

ばんえい競馬の開催による運営経費や、騎手・厩務員などの関係者の雇用、競馬場を訪れる人の馬券購入や飲食費など、直接的な経済効果だけでなく、農用馬の生産に関連する産業や雇用の誘発など、十勝管内における経済への波及効果は、約65億円(平成19年度)と見込まれています。

また、十勝管内で年間100億円を売り上げる企業は少なく、地域経済に与える影響は極めて大きいものがあります。

## 3 ばんえい競馬の現状と課題

### (1) 入場者数、売上について

平成22年8月の「とちちむら」のオープンにより、本場入場者は増加しましたが、全体の馬券発売収入は、帯広市単独開催となった平成19年度以降減少しつづけています。(資料2)

馬券は、「本場」、「直営場外」、「インターネット等の電話投票」、「広域場外」において購入できますが、平成19年度以降、電話投票による馬券発売収入が増加する一方で、本場と直営場外での馬券発売収入は減っています。

平成19年度と平成22年度を比較すると、電話投票による馬券発売収入は、約8億7千万円の増加となっていますが、本場と直営場外の馬券発売収入は、約26億8千万円の減少となっています。(資料3)

電話投票による馬券発売収入は今後も伸びていくと見込まれますが、馬券発売収入からネット発売に伴う手数料が必要となることから、賞金や手当に回る割合も小さくなります。

### (2) 経営状況について

平成19年度に帯広市が、単独開催により、ばんえい競馬を存続した理由は、民間企業への業務委託方式によりコストの圧縮が期待できるとともに、売り上げに応じた賞金・諸手当とする「変動制」の導入や、報償費の削減等を行うことで、当面単年度の収支均衡の確保が可能であり、市民負担を生じる可能性が極めて低いと判断したからです。

帯広市単独開催によるばんえい競馬運営の仕組みは、馬券発売収入から払戻金や賞金・手当、競馬場使用料等の経費を差し引いた残額を競馬事務委託料として民間法人に支払い、馬券の発売・払戻業務、競馬場の維持・

管理、広告宣伝業務などを委託するものです。(資料 8)

この仕組みにより、受託会社は、馬券発売収入の変動により委託料が増減し、競馬運営において生じた損失や余剰は、受託会社が吸収することから、帯広市ばんえい競馬特別会計は、収入の変動にかかわらず常に収支が保たれ、市民負担が生じるリスクが回避されます。

しかし一方で、ばんえい競馬の将来の魅力アップに向けた再投資のための財源が確保できないことが課題となっています。

また、現在の委託方法では、本来行政が行なうべき地域振興に関する業務などについても受託会社に一括して委託しています。さらに、受託業務の決算内容について、ディスクローズ(開示)する仕組みとなっておらず、競馬事業の収支状況が不透明となっており、ばんえい競馬を次年度以降も開催するかどうかは、受託会社が引受けるか否かにより大きく左右されるなど、行政の責任の範囲がはっきりしないものとなっています。

### (3) 馬主、生産者、調教師、既務員について

近年、馬主や生産者が大きく減少しています。馬主は、変動制の導入によって報償費を約4割削減したことなどにより、平均的な能力を有する馬(年間に3勝程度する馬)を所有していても、馬の管理や出走に要する経費を賄うことが困難な状況となっています。

このため、平成19年に501人いた道内の馬主会員数は、現在386人まで減少しています。(資料10)

ばんえい競馬の開催が単年度開催のため、生産者や馬主にとっては次年度以降を見越した馬の生産や売買が行いづらく、将来の夢や希望が持ちにくいことも要因の一つであると考えます。

馬主や生産者の減少に伴い、農用馬の生産頭数は、平成7年から平成22年の15年間で、生産頭数は4分の1まで減少しており(資料9)、ばんえい競馬の競走馬の実頭数は、500頭を下回っています。

さらに、今年の夏に発生した牛肉の集団食中毒や馬肉の寄生虫による食中毒の影響により、馬肉の需要が激減するなど、農用馬生産の下支えとなっていた馬肉の価格が低迷しており、このままでは、競走馬の不足により、ばんえい競馬の継続が不可能となることが懸念されています。

馬の飼育や調教を担う既務員や調教師の生活環境についても、報償費の削減により厳しいものとなっています。また、施設の老朽化がすすみ、維持管理コストが高くなっているため、こうしたコストの低減をはかるとともに、競馬場内で生活をしながら働いている既務員や調教師などの就労環境の改善が必要です。

## 4 ばんえい競馬継続開催に向けた課題への対応

### (1) 収入の確保

馬券発売収入は減少傾向で推移しており、平成 20 年度は前年度の 89.3%と 10%以上も減少していますが、平成 22 年度は前年度の 98.4%とわずか 1.6%の減少に留まっています。(資料 2)

この要因としては、平成 22 年にオープンした「とちまちむら」による集客効果が大きく影響したと考えられます。

ばんえい競馬を観光資源として複合的に捉えて、競馬と観光事業の相乗効果により、帯広・十勝を訪れる観光客に広くばんえい競馬の魅力を感じてもらい、競馬場の入場客数を増加させることが収入確保の第一歩ですが、さらに、馬券の売上げの増加に結びつけていくことが重要です。

また、馬券発売収入全体が減少している中で、唯一増加している電話投票については、馬券のネット販売を行う会社に対して、手数料率の見直しを求めることを検討する必要があります。

本委員会において提案された収入確保の具体的な方策は、次のとおりです。

#### ① 本場入場者の増加策

- ・ 競馬場内にハーブを植え、ハーブティー、ハーブオイル、ハーブ石鹸などの加工品の製造・販売を行い、新たな集客につなげる。
- ・ 海外の旅行代理店とのタイアップにより、アジアの海外旅行客の取り込みを行うほか、海外旅行客の高額所得者層をターゲットとした予約制 VIP サロン施設の整備や海外でばんえい競馬の馬券購入ができる仕組みを構築する。
- ・ 旭山動物園の「行動展示」の発想と同様に、練習風景が見れるなど、競馬場の 1 日の生活を展示する取り組みを行う。
- ・ 気軽に競馬場に入れる外観の整備や馬の走る姿が見ることができるレストランの整備など、施設全体の充実をはかる。
- ・ 競馬場に隣接する共栄通りの整備も予定されており、将来構想の中で、全体的な施設の見直しが必要。
- ・ 競馬をやらない男性も訪れやすい雰囲気づくりなど、一部の競馬ファンの限られた空間でなく、市民にとって身近で楽しめる施設にする。

- ホースセラピーなど、馬を通して動物の温かみにふれるということの大切さも指摘されており、馬文化を学ぶ場や馬にふれあう場として、競馬場が市民に身近な雰囲気になると良い。

## ② 馬券購入につなげるための方策

- 競馬新聞を分かりやすく簡易な形態にした情報紙(「イージーフォーム」)を作成し、ツアー客や初心者でも馬券を購入しやすい環境を提供する。
- ばんえい競馬体験バスツアーなどを企画し、多くの市民がばんえい競馬を観戦し、馬券購入の体験ができる機会を提供する。
- バックヤードツアーの参加者に、案内料として、例えば 1,000 円いただく代わりに馬券 1,000 円を提供するなど、競馬場内で支出を行った方々に損をさせることなく、馬券を購入してもらう。
- 帯広に出張で訪れるビジネスマンが、仕事の前後の時間を利用して競馬場に足を運んでもらうため、開催日である月曜日以外の平日においても馬とふれあう機会を拡充する。
- 「ゴールデンバージ」という馬が人気を博しているが、騎手や調教師においても「スター」をつくる。
- 従来から来場しているファンに、より多くの馬券を購入してもらえよう方策を検討する。
- 新しい客層や中央競馬ファンを取り込む方策が必要。
- とかちむらの中に券売機を設置し、競馬場との一体感をもたせ、気軽に馬券を購入できるようにする。

## ③ 馬券発売収入以外の収入確保策

- 現在ボランティアで行っている馬とのふれあいの取り組みを有償化する。
- 騎手や調教師等と有償で懇談できる機会などを提供する。
- 北海道の馬文化は北海道遺産に選定されており、農用馬は十勝管内に限らず道内一円で広く生産されていることから、馬産振興として北海道の支援を要請する。

## (2) 運営手法の見直し

### ① 業務委託方法について

現在のばんえい競馬運営の仕組みでは、馬券発売収入から必要な特定経費を差し引いた金額を業務委託料とすることにより、受託業務において生じた損失や余剰は、受託会社が吸収する仕組みとなっています。

しかしながら、馬券発売収入の減少により委託料も年々減少していることから、経費のさらなる見直しを行うとともに、受託業務の決算内容をディスクローズ（開示）することを前提として、競馬運営に必要な委託料が確保されるよう、これまでの委託方法の見直しについて検討する必要があります。

また、ばんえい競馬の魅力を高めるため、将来に向けた再投資のための財源を確保する必要があります。

### ② 賞典奨励費（変動制）について

馬券発売収入に応じて賞金・諸手当の額を決める「変動制」は、合理的な運営方法ですが、毎年売上が減少する中で賞金額等の引き下げは限界にきています。

生産者や馬主を確保し、調教師や騎手、厩務員などの関係スタッフが安心して働き続けることができるよう、競走馬の生産や出走に必要な経費を確保できる仕組みについて検討する必要があります。

### ③ 行政の主体性の確保について

現在のばんえい競馬運営の仕組みでは、業務の大半を包括的に受託会社に委託していますが（資料8）、観光などの地域振興に寄与する経費と公営競技に係る経費の区分を見直し、帯広・十勝の貴重な観光資源であるばんえい競馬を地域振興に活かす取り組みについては、行政が主体的に行う必要があります。

また、馬券発売収入や競走馬の生産状況などに応じた持続的な運営体制を構築するため、出走頭数や開催回数の見直しなど、適正な開催規模についても検討する必要があります。

さらに、馬主や生産者が将来の展望を持って、生産活動等ができるように、ばんえい競馬の次年度以降の開催については、単年度ごとに判断するのではなく、一定期間以上の継続開催を前提とした中長期的な開催見通しを、行政が責任を持って示す必要があります。

## 5 ばんえい競馬の今後のあり方

帯広市ばんえい競馬を今後も継続開催していくための道のりは、決して容易ではありませんが、広く情報を発信し、ばんえい競馬が帯広・十勝の貴重で魅力ある地域資源であることを、多くの方々に理解していただき、支えていただくことが必要です。

世界で唯一のばんえい競馬を無くしてしまうことは、帯広・十勝にとって、大きな損失と考えます。

このため、当委員会では、早急な見直しが必要と考える以下の3項目について、「提言」を行います。

1. 競馬主催者である帯広市は、ばんえい競馬の継続開催に向けた強い意志を持ち、3年間以上の中長期的なビジョンを示し、競馬事務の受託会社をはじめとする関係団体と協調をはかること。
2. 現在の運営方法・仕組みの見直しを行い、競馬運営の透明性を高めること。
3. ばんえい競馬は、開拓の歴史を伝える文化であり、貴重な観光資源でもあることから、地域振興に活かす取り組みについては、帯広市が責任を持って行うこと。

競馬主催者である帯広市にあっては、本検討委員会の報告・提言を真摯に受け止め、今後策定するばんえい競馬の振興ビジョンに反映するとともに、北海道の開拓の歴史を伝える文化であり、貴重な地域資源であるばんえい競馬を、十勝管内の町村と連携をはかりながら、『ばんえい十勝』として未来に引継いでいくことを切望するものです。

## 6 参 考 資 料

資料 1	ばんえい競馬の収支状況の推移	1
資料 2	馬券発売収入の推移	2
資料 3	発売方法別発売収入の推移	3
資料 4	入場者の推移	3
資料 5	団体来場件数、バックヤードツアー参加者数等の推移	4
資料 6	メディア取材の推移等	5
資料 7	帯広市ばんえい競馬会計の仕組み	6
資料 8	競馬事務委託の内容	7
資料 9	農用馬の生産頭数の推移	8
資料 10	馬主会員数の推移	8
資料 11	帯広市ばんえい競馬検討委員会委員名簿	9
資料 12	帯広市ばんえい競馬検討委員会開催経過	10

## 資料 1 ばんえい競馬の収支状況の推移

(単位：千円)

年 度	歳入総額	歳出総額	実質単年度収支	翌年度繰越金	市配分金
平成元年度	28,082,564	27,987,472	747,102	95,092	584,000
平成2年度	32,339,366	32,254,796	1,481,935	84,570	584,000
平成3年度	32,591,884	32,372,141	959,785	219,743	784,000
平成4年度	30,007,967	29,981,961	84,581	26,006	684,000
平成5年度	30,847,970	30,836,697	6,077	11,273	0
平成6年度	30,852,504	30,820,154	114,077	32,349	88,000
平成7年度	30,428,358	30,421,128	▲ 359,255	7,230	0
平成8年度	28,108,965	28,097,962	▲ 117,827	11,003	0
平成9年度	27,335,849	27,296,290	167,252	39,559	0
平成10年度	24,384,553	24,355,009	▲ 375,314	29,544	0
平成11年度	21,903,692	22,224,005	▲ 367,399	▲ 320,313	0
平成12年度	21,617,153	22,134,245	▲ 322,167	▲ 517,092	0
平成13年度	20,211,586	21,486,475	▲ 895,106	▲ 1,274,889	0
平成14年度	18,830,154	20,506,703	▲ 401,660	▲ 1,676,549	0
平成15年度	17,394,235	19,248,130	▲ 346,683	▲ 1,853,894	0
平成16年度	14,906,155	17,327,848	▲ 657,798	▲ 2,421,692	0
平成17年度	15,818,232	18,954,472	▲ 742,894	▲ 3,136,240	0
平成18年度	組合解散（全て清算）		▲ 780,022	▲ 3,916,262	0
<b>平成18年度までは北海道市営競馬組合（4市）開催、平成19年度からは帯広市1市単独開催</b>					
平成19年度	13,488,546	13,488,182	364	0	0
平成20年度	11,831,595	11,830,890	705	0	0
平成21年度	11,010,947	11,010,021	926	0	0

### ばんえい競馬からの収益金の状況（帯広市のみ）

市営（S28～S63）4,535,089千円、組合営（H元～H6）681,000千円 計5,216,089千円



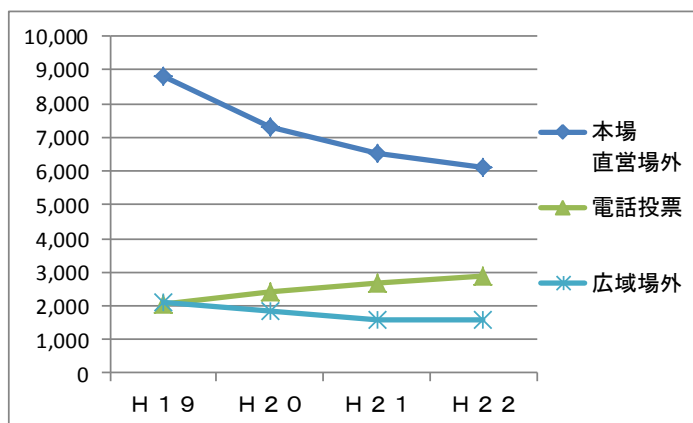
## 資料２ 馬券発売収入の推移

年 度	開催日数	発売金額（円）	前年比	1日平均（円）	前年比
平成元年度	138	28,002,724,200		202,918,291	
平成2年度	138	32,105,078,900	114.6%	232,645,499	114.6%
平成3年度	138	32,292,488,800	100.6%	234,003,542	100.6%
平成4年度	138	29,225,593,600	90.5%	211,779,664	90.5%
平成5年度	144	30,542,571,500	104.5%	212,101,191	100.2%
平成6年度	144	30,563,390,400	100.1%	212,245,767	100.1%
平成7年度	156	29,813,994,700	97.5%	191,115,351	90.0%
平成8年度	150	27,628,376,100	92.7%	184,189,174	96.4%
平成9年度	150	26,992,859,700	97.7%	179,952,398	97.7%
平成10年度	150	23,368,775,100	86.6%	155,791,834	86.6%
平成11年度	150	21,163,154,900	90.6%	141,087,699	90.6%
平成12年度	150	20,717,068,000	97.9%	138,113,787	97.9%
平成13年度	148	19,601,627,800	94.6%	132,443,431	95.9%
平成14年度	148	18,494,861,200	94.4%	124,965,278	94.4%
平成15年度	153	16,910,260,100	91.4%	110,524,576	88.4%
平成16年度	152	14,447,388,100	85.4%	95,048,606	86.0%
平成17年度	162	15,416,608,400	106.7%	95,164,249	100.1%
平成18年度	162	14,524,139,100	94.2%	89,655,180	94.2%
<b>平成18年度までは北海道市営競馬組合（4市）開催、平成19年度からは帯広市1市単独開催</b>					
平成19年度	150	12,933,971,600	89.1%	86,226,477	96.2%
平成20年度	150	11,555,358,700	89.3%	77,035,725	89.3%
平成21年度	150	10,736,137,400	92.9%	71,574,249	92.9%
平成22年度	151	10,568,312,900	98.4%	69,988,827	97.8%

### 資料3 発売方法別馬券発売収入の推移

(単位:百万円)

年度	本場 直営場外	電話投票	広域場外
H19	8,788	2,028	2,118
H20	7,312	2,415	1,829
H21	6,500	2,655	1,581
H22	6,111	2,899	1,559



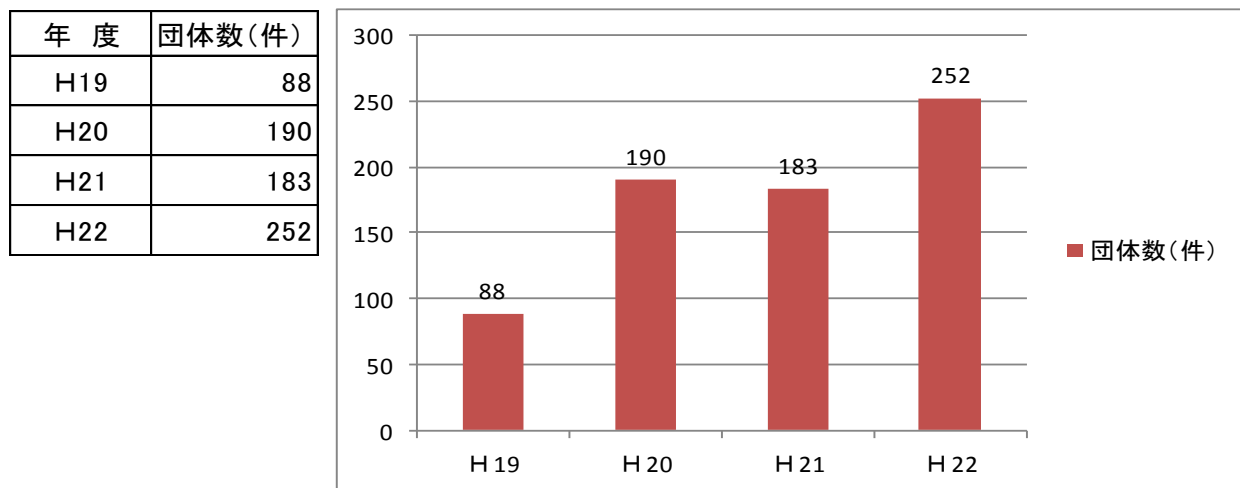
### 資料4 入場者の推移

年度	開催日数	本場(人)	前年比	場外(人)	前年比	合計(人)	前年比
平成元年度	138	232,265		521,174		753,439	
平成2年度	138	262,025	112.8%	562,874	108.0%	824,899	109.5%
平成3年度	138	273,407	104.3%	569,958	101.3%	843,365	102.2%
平成4年度	138	247,822	90.6%	543,842	95.4%	791,664	93.9%
平成5年度	144	252,903	102.1%	585,278	107.6%	838,181	105.9%
平成6年度	144	259,395	102.6%	551,686	94.3%	811,081	96.8%
平成7年度	156	260,267	100.3%	546,705	99.1%	806,972	99.5%
平成8年度	150	246,209	94.6%	502,425	91.9%	748,634	92.8%
平成9年度	150	230,027	93.4%	511,581	101.8%	741,608	99.1%
平成10年度	150	219,751	95.5%	455,024	88.9%	674,775	91.0%
平成11年度	150	193,277	88.0%	419,703	92.2%	612,980	90.8%
平成12年度	150	191,411	99.0%	409,976	97.7%	601,387	98.1%
平成13年度	148	197,984	103.4%	411,183	100.3%	609,167	101.3%
平成14年度	148	181,817	82.7%	428,805	104.3%	610,622	90.5%
平成15年度	153	167,542	86.7%	406,868	94.9%	574,410	93.7%

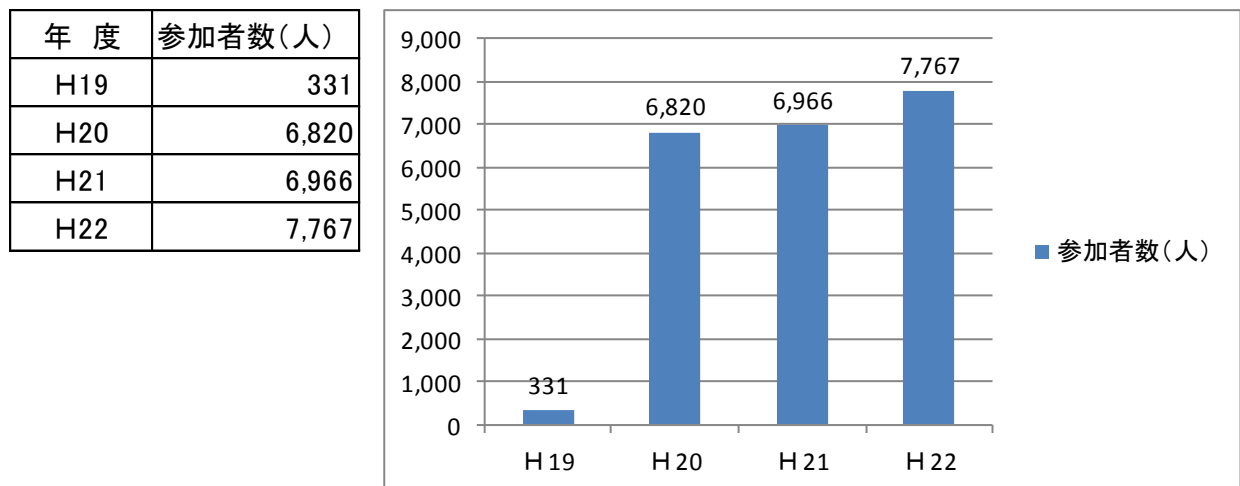
年 度	開催日数	本 場 (人)	前年比	場 外 (人)	前年比	合 計 (人)	前年比
平成 16 年度	152	150,629	78.7%	366,607	90.1%	517,236	86.0%
平成 17 年度	162	165,963	83.8%	383,783	104.7%	549,746	90.2%
平成 18 年度	162	177,295	106.8%	361,838	94.3%	539,133	98.1%
<b>平成 18 年度までは北海道市営競馬組合（4市）開催、平成 19 年度からは帯広市 1 市単独開催</b>							
平成 19 年度	150	237,165	133.8%	264,080	73.0%	501,245	93.0%
平成 20 年度	150	214,808	90.6%	221,287	83.8%	436,095	87.0%
平成 21 年度	150	200,176	93.2%	210,645	95.2%	410,821	94.2%
平成 22 年度	151	247,416	123.6%	195,599	92.9%	443,015	107.8%

## 資料 5 団体来場件数、バックヤードツアー参加者数等の推移

### (1) 団体来場件数



### (2) バックヤードツアー参加者数の推移



## 資料6 メディア取材の推移等

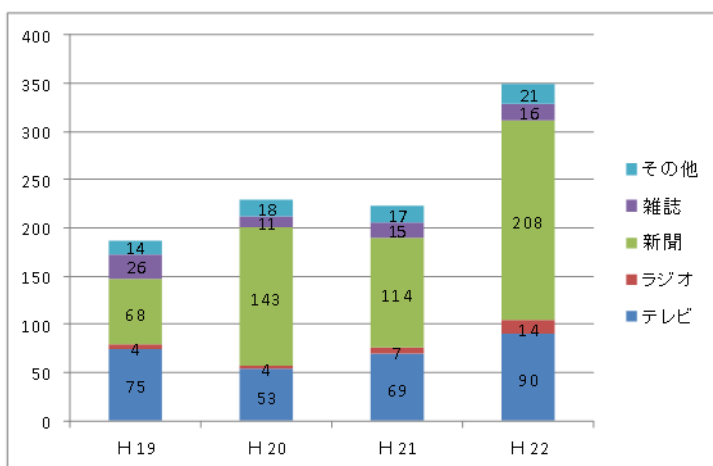
### (1) ばんえい競馬を取り扱った主なテレビ番組等

放映年	番組名	放送局名等
H19	土曜スペシャル	テレビ東京
	未来予測つながるテレビ@ヒューマン	NHK
	めざまし北海道おはよう山田です	UHB
	D! アンビシャス	STV
	朝だ! 生です! 旅サラダ	朝日放送
	スーパーニュース	UHB
	遠くへ行きたい	日本テレビ
	タカアンドトシのどおーだ!	UHB
H20	タカアンドトシのどおーだ!	UHB
	いきなり黄金伝説	テレビ朝日
	旅コミ北海道	テレビ北海道
	わがまま! 気まま! 旅気分!	UHB
	ぽっかや診療所事件カルテ	松竹芸能
H21	タカトシ牧場	UHB
	スーパーJチャンネル	テレビ朝日
	アド街ック天国	テレビ東京
	旅コミ北海道	テレビ北海道
	北海道ひと物語	NHK
	グラン・ジュテ	NHK教育
H22	原千晶の十勝DE tokachi見つけ旅	HTB
	カラフル	NHK教育
	にじいろジーン	関西テレビ
	ズームイン! SUPER	日本テレビ
	笑っていいとも	フジテレビ
	キズナのチカラ	BS日テレ
	目撃! 日本列島	NHK
	報道ステーション	朝日放送
	爆問パニックフェイス	TBS
	みのもんたの朝ズバッ!	TBS
H23	D! アンビシャス	STV
(予定)	北海道大好き	TVH
(予定)	大地のファンファーレ	NHK

## (2) 取材件数

(単位:件)

年 度	テレビ	ラジオ	新聞	雑誌	その他
H19	75	4	68	26	14
H20	53	4	143	11	18
H21	69	7	114	15	17
H22	90	14	208	16	21



## 資料7 帯広市ばんえい競馬会計の仕組み

(平成22年度決算)

### 収 入

- 勝馬投票券発売収入  
 予算：108.8億円  
 決算：105.7億円 (△3.1億円)  
 (100%) A
- 他場発売協力金・入場料収入等  
 予算：2.5億円  
 決算：2.4億円 (△0.1億円)
- 合計  
 予算：111.3億円  
 決算：108.1億円 (△3.2億円)

### 帯広市競馬開催経費

- 払戻金 (74%)  
 予算：80.5億円  
 決算：78.3億円  
 (A × 74%)
- 賞金・手当 (8%)  
 予算：8.9億円  
 決算：8.6億円  
 (A × 8%)
- その他：場外発売協力金、地全協交付金、帯広競馬場使用料、警備委託費 他  
 予算：9.1億円 決算：8.6億円
- 合計 予算：98.5億円、決算：95.5億円 (△3億円)

### 委託料

- 競馬事務委託料等  
 予算：12.8億円  
 決算：12.6億円 (△0.2億円)

← 収入 108.1 億円 →

← 支出 108.1 億円 →

※勝馬投票券発売収入の74%が払戻金、およそ8%が賞金・手当に充てられる。  
 ※収入から開催経費を引いた残額が委託料となるため、収入が変化しても常に収支同額で均衡が保たれる。

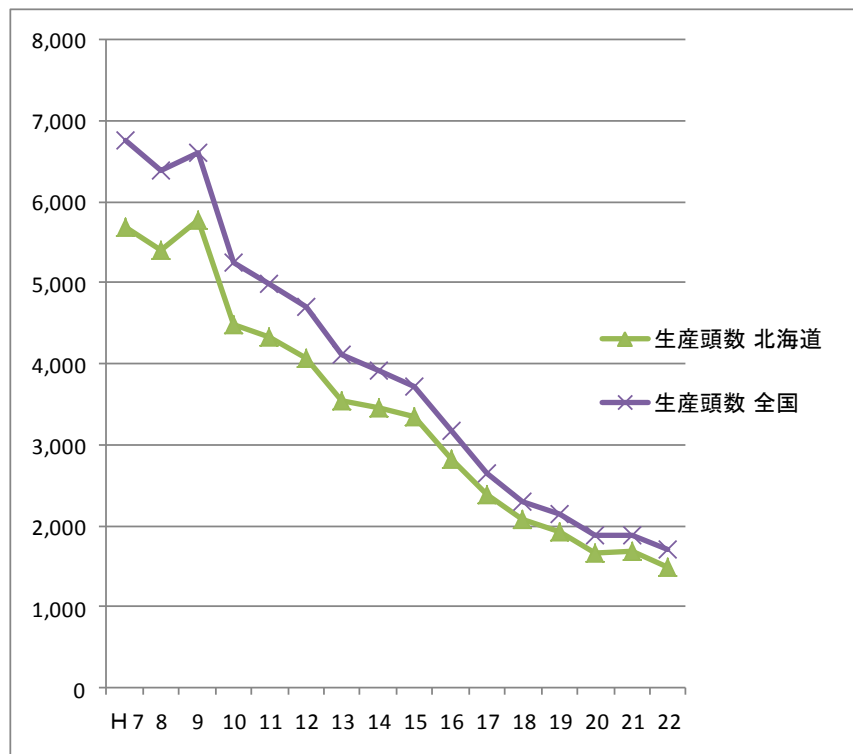
## 資料 8 競馬事務委託の内容

項 目	主 な 委 託 業 務 内 容
勝馬投票券の発売・払戻業務	帯広競馬場、場外発売所での発売関係現金管理業務 投票業務ホストコンピュータ等保守管理業務 投票用複合端末機の保守管理業務 電話投票発売業務委託(オッズ・パーク、楽天競馬) 競馬開催に必要な勝馬投票券、マークカード等の物品手配 競馬主催者以外への発売業務委託(日本レーシングサービス)
帯広競馬場・場外発売所設備の管理	清掃業務 除排雪業務 設備の管理・修繕 着順判定のための写真撮影、現像業務 本走路の整備、維持・管理 本走路凍結防止ヒーティング設備の立ち上げ、保守管理業務 発馬機の保守管理、橋配列・運搬業務 競馬場内の電源設備の保守管理業務 帯広競馬場、場外発売所無停電電源装置の保守管理業務 ファックス、電話回線の保守管理
ファンサービス 映像・実況放送の提供	予想専門誌の送付(大井競馬場ふるさとコーナー、他場外) 衛星放送(スカイパーフェクTV)での実況放送 映像ネットワーク運用業務 競走実況放送、馬紹介等の業務 電話による音声払戻案内サービス 競走映像等撮影業務 帯広競馬場、場外発売所等でのファンサービスイベントの実施 プレミアムラウンジ受付業務
ばんえいPR 広告宣伝業務	情報提供、告知に関する業務 ・ポスター・パンフレット作成 ・TV,新聞広告掲出 ・スポーツ紙での馬柱掲載 オフィシャルサイトの運用、保守(ばんえい十勝公式HP) 北海道内外でのばんえい競馬のPR ・旭川夏祭、網走流氷祭、北見たいよう祭等 ・大井競馬場、川崎競馬場、世田谷馬事公苑等
帯広競馬場内等の維持・管理	走路整備等車両借り上げ きゅう舎内馬房、馬房周辺への火山灰散布 きゅう舎内道路、練習走路の整備、除排雪 燃料、光熱費の調達業務 馬きゅう肥中間出し業務

## 資料 9 農用馬の生産頭数の推移

(単位:頭)

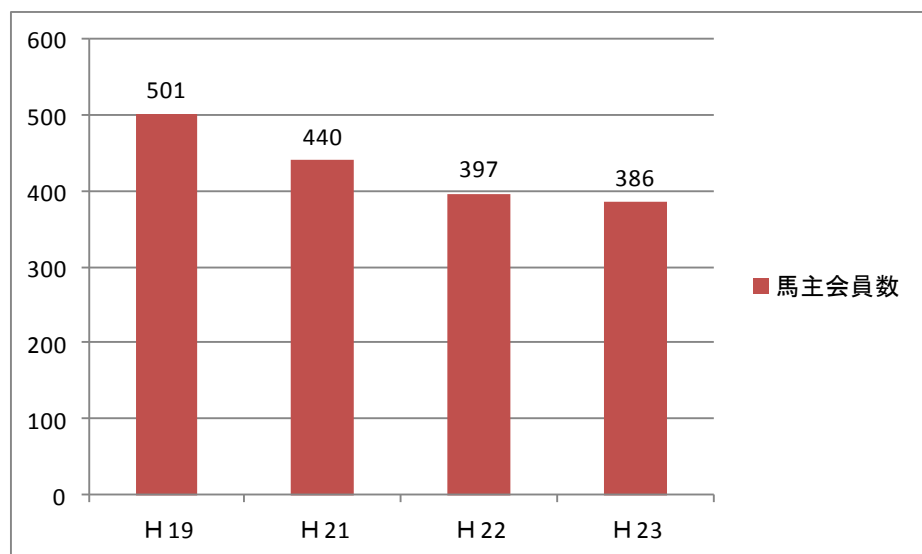
年 度	生産頭数	
	北海道	全国
H7	5,692	6,758
8	5,413	6,383
9	5,773	6,606
10	4,478	5,240
11	4,327	4,998
12	4,079	4,701
13	3,546	4,121
14	3,458	3,906
15	3,341	3,730
16	2,821	3,163
17	2,395	2,655
18	2,085	2,309
19	1,930	2,143
20	1,672	1,889
21	1,680	1,880
22	1,501	1,717



## 資料 10 馬主会員数の推移

(単位:人)

年 度	馬主会員数
H19	501
H21	440
H22	397
H23	386



## 資料 1 1 帯広市ばんえい競馬検討委員会委員名簿

(五十音順)

赤 堀 幸 英

秋 元 和 夫

河 西 智 子 (職務代理者)

後 藤 健 二 (委員長)

佐々木 啓 文

竹 川 博 之

西 部 博 寿

橋 枝 篤 志

福 島 美保子

山 本 昭一郎



## 資料 1 2 帯広市ばんえい競馬検討委員会開催経過

年 月	経 過
H23. 5. 25	<p>帯広市ばんえい競馬検討委員会設置</p> <p>第 1 回帯広市ばんえい競馬検討委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○委員長選出</li> <li>○報告事項               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ばんえい競馬の歴史・沿革について</li> <li>(2) ばんえい競馬の現況について</li> <li>(3) ばんえい競馬会計のしくみについて</li> <li>(4) 平成 23 年度のばんえい競馬開催計画について</li> </ul> </li> <li>○今後の検討委員会開催スケジュールについて</li> </ul>
H23. 6. 29	<p>第 2 回帯広市ばんえい競馬検討委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○馬文化継承の取り組み               <ul style="list-style-type: none"> <li>※NPO法人とかち馬文化を支える会 専務理事 旋丸 巴氏 による事例報告</li> </ul> </li> <li>○ばんえい競馬と地域との関わりについて</li> </ul>
H23. 7. 27	<p>第 3 回帯広市ばんえい競馬検討委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ばんえい競馬運営のあり方について</li> </ul>
H23. 8. 30	<p>第 4 回帯広市ばんえい競馬検討委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○継続開催に向けた課題解決について</li> </ul>
H23. 10. 11	<p>第 5 回帯広市ばんえい競馬検討委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○帯広市ばんえい競馬検討委員会報告書（素案）について</li> </ul>
H23. 11. 7	<p>第 6 回帯広市ばんえい競馬検討委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○帯広市ばんえい競馬検討委員会報告書(案)について</li> </ul>